

学校法人 兵庫医科大学広報

第189号 平成19年7月

建学の精神 ・ 社会の福祉への奉仕 ・ 人間への深い愛 ・ 人間への幅の広い科学的理解

兵庫医科大学と関西学院大学の学術交流に関する包括協定締結



兵庫医科大学と関西学院大学は、ともに兵庫県西宮市に本拠を置く大学として学生や教員の研究学術交流、授業科目の相互提供など教育・研究の充実発展、友好関係の推進を目的とする包括協定を締結し、平成19年7月12日、両大学長が協定書に調印しました。

今後、両大学は、学生（大学院生を含む）及び教員の相互交流、授業科目の相互提供（単位の相互認定及び双方向授業の実施）、学術発展のための共同研究、教育・研究に関する学術及び技術交流と情報交換等の実現に努力します。



波田壽一学長（左）と
関西学院大学 平松一夫学長（右）

【目次】

平成19年度兵庫医科大学入学式	1
第101回医師国家試験	3
第30回兵庫医科大学卒業式	4
兵庫医科大学学生部長・教務部長就任	7
兵庫医療大学学生部長・教務部長就任	8
兵庫医療大学図書館長就任	9
教授就任	9
平成18年度退職記念講演会	11
平成20年度兵庫医科大学入学者選考要項	11
平成20年度兵庫医療大学入学者選考要項	11
平成19年度兵庫医科大学大学院医学研究科入学式	13
役員・評議員の異動	14

学位の授与	17
財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況	18
平成18年度私立大学等経常費補助金交付決定	19
病院概況	20
産科婦人科学 香山教授 米国生殖免疫学会の The Distinguished Service Award受賞	20
平成18年度兵庫医科大学附属看護専門学校卒業式	21
平成19年度兵庫医科大学入職式・オリエンテーション	21
敷地内全面禁煙の完全実施に向けて	21
人事異動	22
規程等の制定・改正	26
新大学のための募金	29

平成19年度 兵庫医科大学入学式

平成19年4月5日(木)午前10時から、平成記念会館において平成19年度兵庫医科大学入学式が挙行され、101名の新入生が入学しました。



《学長式辞》

兵庫医科大学学長 波田 壽一

新入生の諸君、ご入学おめでとう。諸君の入学を称えるかのように桜の花も満開に咲き誇っている4月のこの佳き日に、ここに多数のご来賓、保護者の皆様、そして本学理事長を始め、役員、教職員のご臨席を頂き、ここに平成19年度第36回兵庫医科大学入学式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであり、関係各位に厚くお礼を申し上げます。諸君の長年の努力が実り、本学に入学されましたことを、本学を代表して、諸君にお祝いと歓迎の意を表したいと思えます。また、保護者の皆様にも心からお喜びを申し上げます。

申すまでもなく、本学は故森村茂樹先生により昭和47年4月に開学致しました。以来35年、「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」を建学の精神として、全人的医療を担える良医の育成を目指してまいりました。現在までに3095名の卒業生を輩出し、教職員と卒業生の皆さんの日夜の努力で、本学は日本全国のみならず海外からも高い評価を頂いております。これまでに施設、設備や教員組織の充実に努めてまいりましたが、今後とも長期的視点に立った改革を引き続き行ってまいりたいと考えております。

今年度は学校法人兵庫医科大学にとりましては開学以来の大きな事業が開始されます。ご存知かと思いますが、ポートアイランドの地に兵庫医療大学を創設し、明日第

1回目の入学式が行われます。この大学は薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部からなり、兵庫医科大学の姉妹校ということになります。これまで兵庫医科大学は医師のみを育成してまいりましたが、この新大学が出来ますとチーム医療を担える医師以外の人材を育成、輩出出来ることになり、医療界に更なる貢献が出来ることになります。また、両大学の学生が将来的には教養教育を共通して学ぶとか、クラブ活動を一緒にするとかして、理解と交流を深めることによって、卒業後の臨床の場での良い医療チーム作りがより容易になることが期待されます。また、研究面での幅も広がり、飛躍、発展が大いに期待されております。

さて、諸君は本日より兵庫医科大学で学ぶこととなります。高校までの勉強は与えられた知識を吸収するという受身の勉強が中心であったと思いますが、大学での勉強は「自分で考える」ということを基盤にして行う勉強であり、高校までの勉強法を変えていただく必要があります。

20世紀の医学教育では最新、最高の知識を教えることが卒前医学教育だと考えられてきましたが、近年の知識、技術的進歩は速く、医科大学（又は医学部）で教える最新の知識は卒業後には基本的なことを除き考え方を更新せざるを得ないことも生じています。従って、卒前教育では自分で知識、技術、態度を高める能力を培うことであり、卒業後も学び続ける力をつけることが求められています。自分で問題を見出し、それを調べて、解決して

いく力、が必要とされます。その為に、現在日本の医科大学（又は医学部）ではチュートリアル教育が導入されており、これは学生を少人数グループに分けて、各グループにチューターという指導教員が付いて、学生にシナリオを与え、そのシナリオの中の何が問題であるかを学生自らが見出し、その解決の為にはどうしたらよいかを学生に考えてもらい、自分で解決していく、という教育法で、これにより自学自習の習慣を身に付けてもらうというものです。また、諸君が学ばねばならない知識の範囲についても「モデル・コア・カリキュラム」というものが出来ており、これを全国の医科大学（または医学部）が採用し、このカリキュラムを修了できたかどうかを4学年の終了時に全国共用試験(CBT)として試験をされ、これに合格しないと第5学年に進級できません。医学部の教育とはこのように大変厳しいものである、ということに早く気付いて勉強方法を獲得していただきたいと思います。

医師となる為にはこれだけでは十分ではありません。聖路加病院の日野原重明先生は「言葉を扱うのは哲学者や教師だけでなく、医師には言葉が非常に大切であるという哲学を臨床医は学ばねばならない」と述べておられます。そして更に、同氏は医師になる為に必要な知識、技能を10としますと、サイエンスの理解は4で、アート（一般教養、言葉を変えて言えば人間の持つべき知性、徳、教養を身に付けさせる為の学問）の理解が6でないと臨床医にはなれない、とまで述べておられます。最近の医師に対する苦情の中で上位を占めているものに「医師の説明不足」というのがあります。患者さんに納得してもらえる説明が出来るようになるには、医師に「教養」があることが不可欠であり、説明も「ただ話すのではなく、上手に話すこと、相手にわかってもらえるように話せること」が大切であり、その為には言葉を磨くことを医師は努力すべきである、と言われております。大学入試センターが全国の大学の医学教育に携わっている先生方にアンケートして調べた報告が2005年に出ていますが、この中で優れた医師に求められる資質は何か、という問いに対する回答で最も多かったものから順に①コミュニケーション力、②自己表現力、③読解力、④論理的思考力、となっています。諸君は是非パソコンや、メールのやり取りだけでなく、面と向かって「人生について」あるいは「将来に関して」等を友達や知人とお互いに話し合う機会を多く持って「聞く力」、「話す力」を身に付けると

同時に「論理的に考える力」を培う努力をしていただきたいと思います。

また、日常生活の過ごし方にも工夫をしていただきたいと思います。仏教では八つの正しい生き方「八正道」というのがあります。その8つとは、①正しく物を見る、②正しく考える、③正しい言葉を使う、④正しい行いをする、⑤正しい生活をする、⑥正しく努力する、⑦正しい思念を抱く、⑧正しく瞑想する、というもので、この八つの徳目は日常生活でのチェック項目に相当します。諸君はこれからの学生生活において、この「八正道」の各項目を自分なりにチェックし、自己反省をして、人間性を高め、人格を身に付けていただきたいと思います。ちなみに、仏教では「正しい」見識を持つということは、生命が有限であること、大勢のなかで生きていること、この2点を正しく認識することだといわれています。

また、諸君が良く知っている中国の漢詩に由来する諺に「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んず可からず」という言葉があります。今日しなくても明日がある、という気持ちを捨てて、今日しなければならぬことは今日する、という習慣を是非身に付けていただきたいと思います。

人生においては、同じ川の流れに2度入ることは出来ません。別な言い方をすれば、同じ日は2度ありません。一日一日を大切に、充実した学生時代にして下さい。そして、6年後には本日入学された諸君全員が晴れて本学を卒業されることを願っております。諸君のこれからの大学生活が楽しく、実り大きい青春のひと時になるよう祈っております。

最後にもう一度、ご入学おめでとう。

平成19年度入学式終了後、引き続き波田学長より平成18年度の成績優秀賞5名の表彰が行われました。

【成績優秀賞】

学年次	氏名
第1学年次	溝 渕 裕 喜
第2学年次	山 口 智 裕
第3学年次	小 野 慧 美
第4学年次	松 井 聖 博
第5学年次	山 崎 博 充

第101回 医師国家試験について

教務部長 野口 光一

平成19年2月17～19日に施行されました、第101回医師国家試験の合格発表が、3月29日に行われました。全国での受験者数、合格者数、合格率と本学出身者のデータを表1に示します。

	受験者数	合格者数	合格率
総合計(前回比)	8,573 (-29)	7,535 (-207)	87.9 (-2.1)
うち新卒	7,716 (+27)	7,120 (-99)	92.3 (-1.6)
兵庫医科大学	114 (-4)	93 (-5)	81.6 (-1.5)
うち新卒	94 (-3)	84 (-1)	89.4 (+1.8)

表1 第101回医師国家試験の結果

合格率の順位では、全国私立大学医学部／私立医科大学29校中21位(新卒では18位)と、昨年度(26位、新卒24位)と比較するとかなり上昇しております。新卒においては、卒業判定により6年に留年になったものが11名おり、94名卒業・受験にて84名の合格(合格率89%)という結果でした。中期計画に掲げた数値目標は新卒の合格率は95%であり、さらなる努力が必要と思われます。昨年12月の教授会で卒業保留となり特別授業の結果卒業となった18人の中では12人が合格しましたが、この層に絞ると合格率は67%となります。やはり卒業総合試験の時点で成績不良の場合、直前の対策のみでは限界があることをこのデータは示しております。

昨年度はこの数年間と同様、分野別試験と総合試験を組合せ、模擬試験の結果を加えて卒業判定を致しました。6年次カリキュラムは全国的にみても手厚いものとなっておりますが、卒業総合試験の成績と医師国家試験の成績の高い相関性より、卒業総合試験の成績からみて国家試験の合格の見込みが薄い場合には、6年次留年の判定がでるようになっていきます。全国の医学部／医科大学において6年次留年者を増やすことで、医師国家試験の合格率を上げる傾向が見られ、国立大学医学部においてもごく通常のこととなっております。本学の6年次留年者の数は私立医科大学の中でごく普通のレベルで、無理な数字操作はしておりません。今後ともその方向性は維持し、出来るだけ多くの学生がスムーズに医師になれるよう、対策を練っていきたくております。

第101回医師国家試験の合格基準は、必修問題が80%以上、一般問題は61%以上、臨床実地問題は66%以上、

禁忌肢問題選択数は2問以下であり、昨年度より必修問題／一般問題の難化がうかがい知れます。一般問題、臨床実地問題は相対基準が用いられているようであり、医師国家試験の選抜試験化、競争試験化と言われる所以です。医師になるための資格試験であるべき試験として疑問を感じるところですが、とにかく全国9000名弱の受験生との競争に打ち勝つ必要があります。各大学の医師国家試験対策の充実、共用試験導入により受験対策の早期化、全国医学部受験生の学力の向上などの理由より、問題は年々難しくなっているにも関わらず、合格基準の上昇が明らかです。明らかに60%の正解率では合格はおぼつかない、というのが現在の状況です。

こうした状況を踏まえ、今年度より本学のすべての試験の合格基準を、従来の60点から65点に引き上げました。たかが5点ですが、大きな影響を教員と学生に与えられ考えられます。従来の試験では60点から65点の間に多くの人数が存在しており、これらの層が不合格になるわけです。各科目の教員には、いたずらに難しい問題ではなく、基本的な問題を高い確率で解答出来るよう指導していただく必要があります。また学生にとっても、常に70～80%以上を目標に勉学するよう意識の切り替えをお願いしたいと思います。

今年度も従来からの反省点を踏まえ、医学教育センターを中心として低学年での成績不良者への効率的な学習支援、6年次での分野別試験・卒業総合試験の成績下位グループへの重点的指導等を行う予定です。同時に卒業判定は厳密に行う予定ですので、新6年生の皆さんにはより一層の奮闘を期待します。

第30回兵庫医科大学卒業式

平成19年3月1日(木)午前10時より平成記念会館にて第30回卒業式が執り行われ、94名が卒業しました。



《学長式辞》

兵庫医科大学学長 波田 壽一

94名の卒業生諸君、ご卒業おめでとう。本日ここに多数のご来賓、保護者の皆様、そして本学理事長を始め、役員、教職員のご臨席をいただき、第30回兵庫医科大学卒業式を挙行出来ますことは本学の教職員にとりまして大きな喜びであり、関係各位に厚くお礼を申し上げます。諸君は本学の全ての課程をめでたく修了され、ここに立派な医学士となられたことを心よりお祝いとお喜びを申し上げます。また、6年間の長きに亘って心身共に支えていただいた保護者の皆様にも心よりお喜びを申し上げます。

本学は創立以来35年の歴史を有しており、すでに3001名の立派な卒業生を輩出したしております。ここに94名の新卒業生を加えますと3095名の卒業生を世に送り出すことになります。諸君は本学を卒業されたことを誇りにして、これからの医療や研究に従事し社会に貢献されることを願っております。

諸君も新聞、テレビなどのメディアを通してご存知と思いますが、現在の日本の医療は大変厳しい状況にあります。病院の地域偏在、医師の地域偏在、医師の診療科の偏在、高齢者の医療費の負担増、などで国民は医療に

対して大変不安を感じています。このような中であって医師一人ひとりに何が出来るかを諸君に考えていただきたいと思います。どこの病院でも医師が余っているところはありません。その為に医師は患者さんの要求に十分応えてあげられないのではないか、と思われれます。

WHOの西太平洋地域事務局長をされていた尾身茂氏によりますと、日本は患者の満足度が低いと述べておられ、その理由として、①医療従事者の技術、安全性への不信感があること、②医師、医療従事者は疾患(disease)ばかりを診て、患者が罹患した時に経験する心理的な不安や悩みなどの病感(illness)に鈍感だったということ、③コミュニケーションが不十分なことから生じるインフォームドコンセントが必ずしも十分に行われていないことから、患者は意思決定において無力感を感じる事、④病室のプライバシー確保や、診察の待ち時間が長く、診察時間が短い、など医療現場が快適さに欠ける、などの点を挙げておられます。そして今後の医療界への期待として①今までの生物医学的方法論だけに終始した医学から、新しい「人間医療学の確立」を目指すこと、②プロフェSSIONALとしての自立性を高めること(専門医資格の厳格化、倫理観の確立)、③蜻壺の視野を克服すること(専門領域を超えた広い視野)、を挙げておられます。また、

NPO法人ささえあい医療人権センターCOMLの辻本好子さんはCOMLに毎月300件前後の相談が全国から届いているとのことですが、その電話相談の内容のトップ3は①ドクターへの苦情、②医療不信、③ドクターの説明不足、ということで、患者と医療従事者との間のコミュニケーションにギャップがあると指摘され、患者さんの側から医療者の側への願いとして、「向かい合った目の前の患者“その人”に関心を寄せ、その人が知りたいと思っていることにしっかりと対応し、一人ひとりの患者の内なる声にもう一つの耳を傾けている、そんな医療者に会いたい」と述べておられます。これらの両氏の話をご君はよく記憶しておいて頂きたいと思います。

今やグローバル化の世の中といわれておりますが、医療の面でもグローバル化が進んできています。WHOや国際学会が1つの病気の診断基準や治療指針を決めてこれを学会誌などに載せると、これがグローバルスタンダードとなり、これに準じた診断法や治療法が国際的な基準になりますので、このような情報に医師は通じていなくてはなりません。これまでは、病名がはっきりしておれば、適応が医師の裁量にかなりまかされてきておりましたが、最近は各学会が疾患夫々に対して、ガイドラインを作成して、これが公表されているため、専門家も非専門家もこれに準じた診断法なり、治療法を行う必要があります、これから外れて診療を行って、万一患者さんに不利益が生じたときに裁判をされると負ける可能性があります。現在日本には200を超えるガイドラインがあるといわれておりますが、このガイドラインを良く理解していなければなりません。しかし、これだけでは不十分で、一方ではテラーメイド医療が求められる世の中になっています。これは同じ病気に罹っても、個人個人が遺伝的背景を異にしていますので、同じ量の薬を投与しても、ある人は血中濃度が高くなるが、別の方は血中濃度が高くないということで、薬理効果や副作用が異なることになります。このような個別医療を考慮して、これからは診療業務に当たる必要があることも認識して頂きたいと思います。

これから諸君に求められるのは、自分は何が専門であるのか、ということを確認して医療に従事し、且つ研鑽されることだと思います。このことを一言で別な表現をしますと、something everything, everything somethingということだと思います。これを医療に当てはめますと、前段のsomething everythingは、医療のあらゆる分野に亘って、最低限のことを知っておく必要があるという事ですが、後段のeverything somethingは、ある

特定分野については全てのことに習熟している必要があるということです。前段は医師の医学的常識として全科に亘る最低限の知識を持っている必要がある、ということであり、後段は専門医としての心構え、態度を示していると思われます。更に、これからの医療は幅広い知識と優れた技能を有しているだけでなく、今までにも増して高い倫理観と幅広い教養を持ち、患者さんの気持ちに共感出来る医師が求められていることを忘れないで頂きたいと思います。

諸君はこれから一市民として、また医師として社会に出て行かれるわけですが、これからの人生という旅は卒業の無い旅であり、決して平坦ではありません。多くは山また山の息の切れるのほり道であります。険しい道を登らなければならない事もありますし、道幅が狭くて足を踏み外すと谷に落ちてしまいそうな所を通ることもあると思います。しかし、いつも勇気と細心の注意力と、克服出来るという信念でもってこの山（即ち困難）を乗り越えて頂きたいと思います。どんな小さな山でも頂上を極むれば周囲の見晴らしはすばらしく良くなります。医学についても同様で、1つの課題（これが山ということになりますが）、例えば虫垂炎の手術が一人で出来るようになるという山があるとすれば、それは単に虫垂炎の手術が出来るというに留まらず、虫垂炎の手術の過程で腰椎麻酔の手技を習熟できますし、腹壁縫合の要領も習得できます。また、患者さんの痛みの程度や腹部の診察所見と虫垂の炎症の程度との関係もよく理解できるようになり、次に虫垂炎の患者さんを診察したときに緊急性があるか、無いか判断出来るようになります。一つの山に登るといことは、登る過程で色々な苦労や経験をしながら登るわけで、それが自信に繋がり、知識の幅や視野を広げることに繋がります。諸君には是非小さな山でも大きな山でも、自分で登ろうとした山には、最後まで諦めずに登りきって頂上に立っていただきたいと思います。登りきった山の数、山の大きさが諸君が医師としてどれだけ患者さんの為に貢献出来るかの指標になると思います。徳富蘆花は「山の上にも山あり、山の奥にも山がある。人の生の旅はただ登りです」と書いています。これからの人生で諸君はいくつもの山を上手に登りきって自分の視野を広め、技術を向上させて、患者さんに貢献していただくことを願っております。諸君のこれからのご発展とご多幸を祈念しております。最後にもう一度、ご卒業おめでとう。

「理事長特別賞」受賞

本年度から森村賞に加えて「学業と課外活動の両方で優秀な成績を残した学生」に対し、理事長特別表彰を贈ることになり、第1回受賞者として田崎智子さんが表彰されました。

6年間の優秀な学業成績に加え、西日本医科学生体育大会陸上競技における優秀な成績が評価されたものです。

田崎 智子

学生生活の最後にこのような名誉ある賞をいただくことが出来、感謝の気持ちで一杯です。姫路から通学しながらの学業と部活動（陸上競技部・美術部）の両立は大変でしたが、皆様のお蔭で無事に卒業することが出来ました。6年間どうもありがとうございました。



「森村賞」受賞

神頭 聡

この度、このような賞を受賞することができ、とても光栄に思います。この6年間の大学生活では先生方や友人、両親など多くの人たちに支えられ、勉強や部活動に励むことができました。お世話になった人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。この4月から社会人として、また1からのスタートとなりますが、この母校での経験を大切に今後の医師としての生活を頑張っていきたいと思います。

雪辰 依子

この度、森村賞を頂くこととなり、大変うれしく思います。ありがとうございます。入学し卒業するまで、多くの先生方にご指導して頂いたこと、また6年間支えてくれた両親に感謝しています。学生同士、とても雰囲気の良い兵庫医科大学で学べた事は私にとってとても貴重な財産となりました。兵庫医科大学の卒業生としての誇りを持ち、これから医師として一所懸命とりにくみしたいと思います。



「学生会活動功労賞」受賞

下敷領 美保

今回頂いたこの賞は、私自身だけではなく、共に楽しみ、共に悩み、共に学びながら歩いてきた仲間達全員への頑張ってきた証であり、これからもそれぞれの現場で踏ん張っていく為の励みとして頂いたものだと考えています。みんなを代表して賞して頂いたことを大変嬉しく光栄に思い、これからも多くの方のお役に立てるよう、日々人間力を磨いていきたいと思っています。6年間、本当に有難うございました。

江口 明世

功労賞を受賞させて頂き、ありがとうございました。私は学年代表と学生会代表を務めていました。役不足であったことも多々あり、迷惑をかけることもありましたが、いつも周囲の方々が協力してくださいました。正直、大変だなと思うこともありましたが、色んな人と出会えたり、話ができたり、様々なことを勉強させてもらいました。本当にありがとうございました。学んだことをこれからも生かしていきたいと思っています。



兵庫医科大学 学生部長・教務部長 就任あいさつ

西崎知之教授（生理学第2）が中西憲司前学生部長の後任として、学生部長に選任、野口光一教授（解剖学第2）が竹村基彦前教務部長の後任として、教務部長に選任されました。任期は平成19年4月1日から平成21年3月31日まで。

学生部長就任挨拶



学生部長
西崎 知之

本年4月から学生部長を拝命いたしました。まだまだ未熟ですので、学生部長という重責を担えるかどうか不安な気持ちで一杯です。

か不安な気持ちで一杯です。

私は、学生部の基本方針として第1に、学生の自主性を重んじたいと考えております。即ち、学内で生じた諸問題に対し、まずは学生自らが考え、解決を試みる。学生一人一人が自らに降りかかった問題として真摯に受け止め、自ら回答を出すことで自我を目覚めさせ、自覚を促したいと考えております。幼少の頃から塾通いで慣れ親しんだ一方通行教育からの脱却であります。最終目標は医師になることですが、その第一歩は普段の生活から『自立』ということを学んでほしいと思います。具体的には、現存する学生会の見直しとさらなる充実を計りたいと考えております。学生会長を筆頭に各学年代表を選出し、その下にいくつかの担当委員を配置する組織です。学生部委員会と学生会とは密に連絡を取りながら、学生会で解決できない問題が生じた場合のみ、学生部委員会がそれをサポートするといったシステムを構築したいと考えております。第2に、原則として学生には何らかのクラブ、運動部系なら尚結構、に所属することを推奨します。クラブ内で先輩・後輩の縦の繋がりを作り、同級生との横の繋がりや幅を広げ、さらに各々のクラブ顧問（教員）が相談役となり学生部委員会と連携して問題解決に臨みたいと考えております。

大学とは、個々の学生が目的意識をもって自主的に学問を習得する場であるということを学生諸君ならびに御父兄の方々には十二分に認識していただきたいと思っております。『大学に教育してもらおう』のではなく、『大学で自分が学習する』という意識を心に強く刻んでおいていただきたい。成績が悪い、あるいは試験に合格しないのは当大学の教育方針・教え方が悪いのではなく、学生自身の責任、即ち学生自身が勉強をしていない、努力が足りないためであるということです。私の方針として、責任転換は決して許さないということを憶えておいて下さい。

最後に、私は兵庫医科大学学生のさらなるレベルアップと発展のために全力を尽くす所存です。

教務部長就任にあたり



教務部長
野口 光一

本年4月1日付けで、教務部長を併任することになりました。よろしくお願い申し上げます。

平成6年に本学に赴任して以来、教授会及び教務委員会メンバーとして、本学の教育制度の変遷をみて参りました。また、昨年度は、理事会諮問の中期事業計画の作成にあたっては教育・研究部会長として、いかにして本学の教育研究の質を高め医師養成機関としてのステータスを高めていくかについて、様々な観点から検討し答申案を作成致しました。いわば、本学の5年間の教育に関する方向性を示したわけで、この事業計画を絵に描いた餅にしないためには、問題点の検討に引き続き改革の実践が何よりも重要です。今回の私の教務部長への就任は、兵庫医科大学のために文章を作るだけではなく実践をやりなさい、という皆様からのご指名かと、身を引き締めております。

本学に就任時は森教務部長によりカリキュラム改革が進み始めた時期であり、それ以来医学教育を取りまく状況の劇的な変化により、本学の教務・カリキュラムは大きく変化してまいりました。本学学生の入試偏差値の向上、共用試験の導入・国家試験の難化によるカリキュラムの前倒し・競争激化、新臨床研修制度導入による医師養成システム全体に対する大きな影響など、数多くの変化の要因が挙げられます。本学は比較的迅速に外的変化に対応して、カリキュラム改革や国家試験対策に取り組んで参りました。一方、毎年カリキュラムが変化するという負の側面を指摘する声もあり、医学教育改革の難しさを感じております。

本学の全学生が自発的に勉強に取り組む習慣を身につけ、実践していくような状況を目指して、本学の教務に関する様々な仕事をこなしていきたいと考えております。同時に質の高い医師養成という社会からの期待に応えるためには、きっちりした進級判定・卒業判定も必要と考えております。幸い、本学には学生へのきめ細やかな教育サポートに取り組んでおられる医学教育センターがあります。教務委員会と医学教育センターが車の両輪となって、本学の教育力の向上に向けて進んでいきたいと存じます。

そのためには、本学の教員、職員の皆様、保護者の皆様、そして学生諸君との目的意識の共有が大事です。どうぞ御協力のほどお願い申し上げます。

兵庫医療大学 学生部長・教務部長 就任あいさつ

土肥信之教授（リハビリテーション学部）が学生部長に選任、西原力教授（薬学部）が教務部長に選任されました。任期は平成19年4月1日から平成21年3月31日まで。

新しい大学での第1歩



学生部長
土肥 信之

兵庫医療大学3学部（薬学部、看護学部、リハビリテーション学部）に378名の学生が入学しました。大

学生生活や履修に関するオリエンテーションも終わり、授業も始まりました。まったく新しく開設された大学であり、建物は新しいし、学生も教員も事務局もこれから大学を作り伝統を作っていくのだという一体感で、皆生き生きとした毎日です。このような体験は誰でもできることではありませんが、毎日のように思わぬ出来事もあり、緊張と楽しさが同居しているこの頃です。

大学の環境はすばらしいと思います。美しい神戸港に面し、その向こうには六甲山が厳しさを持って見守ってくれています。3つの大学が同時に開校しましたが、さえぎるものはなく気楽に行き来できます。敷地を一步出ると、ポータライナーが走り、道路は広く美しく、はるか沖合いの神戸空港を発着する飛行機も遠くに見ることができます。近未来的な不思議な空間です。

ここで多感な若者が6年間（薬学部）または4年間（看護学部、リハビリテーション学部）を過ごし、ここを第2の故郷として巣立っていくと思うと、大学も充実した学生生活を送ってもらえるよう多様な支援をしていかなければならないと思っています。

学生には、まず大学生として生活を確立してもらうことが大切であり、通学と勉学のリズムを作してほしいと思います。大学生には暇と時間がある、というのは昔の話です。特に医療系の大学は朝から暗くなるまで、しっかりとカリキュラムが詰まっており、生活の自己管理も大切です。

また、若い人には多くの悩みがあります。進路のことや、勉強のこと、友人、恋、更には人生についての深い悩みもあると思います。知的な悩みを通し、大いに考え、成長してほしいと思う一方、誰かの手助けが必要な場合もあると思います。大学においては、個々の教員や相談室などが学生の悩みに対しアドバイスをする体制も用意しています。

学生たちが、勉学や学生生活を通じ成長し、社会に貢献できる人となれるよう願っています。

教務部長就任にあたり



教務部長
西原 力

お蔭様で、兵庫医療大学がポートアイランドで船出することができました。入学式で新入生378名に対す

る学長メッセージに「兵庫医療大学の特徴である臨床に根ざした知識や技術をたくさん自分のものに出来るようこれから頑張ってもらいたい。」とありましたが、まさに新大学では兵庫医科大学のバックアップのもとに実施するチーム医療の実践教育と基礎教育がカリキュラムの最大の特徴です。それぞれ薬剤師、看護師、理学療法士や作業療法士を目指す薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部が同じキャンパスにあります。これに医師を目指す兵庫医科大学の医学部を加えるとチーム医療を支える主要なメンバーが揃うことになります。そこで、カリキュラムも医科大学との連携を前提に作成し、兵庫医大の先生による臨床系の授業も多数用意されています。本年度は3学部共通の医療科学概論が開講され、夏休み前には3学部をミックスしたグループで兵庫医大病院において早期体験学習をします。2年次以降もチーム医療概論やチーム医療論演習なども行い名実ともにチーム医療の習得を行います。さらにその総仕上げが兵庫医大病院をはじめ関連病院で実施されます。これらは、兵庫医科大学の諸氏の多大なるお力添えなしではなしえないことです。授業や実習はもちろん、病院ボランティアなどのクラブ活動等も医療を学ぶ大きな機会になることは言うまでもありません。

ボーダレスな環境というコンセプトは教育面だけではなく、建物も学部別ではなく、物理的にも自然に交流できるようになっています。これは教員についても同様で、際たるものはM（Mountain）棟とG（Garden）棟4階の教員室エリアです。数多くのオープンな談話スペースがあり、教員室も私（薬学部）の右隣は看護学部、左隣はリハビリテーション学部の学部長といった具合です。一度ぜひお訪ね下さい。

「建学の精神」に基づき、ミッション「幅広い知識と豊かな人間性を持ち、社会と共に医療を担う医療専門職者を養成する」を達成するため、教務部長としても最大限の努力をする所存ですので、今後ともご厚情を切にお願い申し上げます。

兵庫医療大学 図書館長就任あいさつ

末廣謙教授（共通教育センター）が図書館長に選任されました。任期は平成19年4月1日から平成21年3月31日まで。

図書館長の就任にあたって



兵庫医療大学 図書館長
末廣 謙

この度は図らずも図書館長に任命され、大変光栄に思いますと同時に、図書館の専門知識がない私でよいのかと少々当惑も致しております。皆様方のご支援をお願い申し上げます。

私共の図書館は大学の中心であるポートウイング3階に位置し、面積は約3000㎡、閲覧座席数290席と情報検索用PC28台が設置されています。閲覧室からは神戸港とハーバーランド、さらには六甲の山並みが一望でき大学構内で最も見晴らしのよいロケーションの一つです。現在の蔵書数はまだ単行本5600冊、和・洋雑誌200種類およびオンラインジャーナルが2500種類あるのみですが、今後2年間で開学当初の計画を完成させ、その後毎年充実を図って行くこととなります。

兵庫医療大学はポートアイランド西地区キャンパスエリアに位置する神戸女子大学、神戸学院大学、および神戸夙川学院大学と共に4大学共同でボーダーレスな教育、

研究環境の整備を目指していますが、図書館はまさしくその中心的な存在と考えられます。4大学連携図書館部会を定期的に開催し、施設の開放と共同利用、相互貸借など具体的な方法を現在策定中です。また西宮キャンパスの兵庫医科大学図書館との連携は言うまでもありませんが、兵庫医療大学図書館は医学部にはない分野の書籍も多数所有しておりますので西宮キャンパス関係者の多くのご利用も歓迎致します。

図書・出版分野では近年大きな変革の時期を迎えています。すなわちグーテンベルグに始まる出版物の大量印刷とその流通は、情報伝達における遅滞性からペーパーレスのオンライン情報伝達に主役の座を譲ろうとしています。確かに最新の情報を入手するだけであればオンライン検索が最も迅速で確実ですが、教育や情報面から考えるといつの時代も印刷物を閲覧することが絶対必要です。図書館の立場としては情報を伝達するという事務的業務より、印刷物を閲覧する最良の環境を提供することの方が重要と思われ、この点を心に銘記して職務を果たして参りたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

教授 就 任

放射線医学 廣田 省三 教授	4月1日昇任	(本学放射線医学 臨床教授)
外科学 富田 尚裕 教授	4月1日就任	(関西労災病院 消化器外科部長)
笹子 三津留 特命教授	4月1日就任	(国立がんセンター中央病院 副院長)

※ () 内は就任及び昇任前の所属等を示す。

放射線医学の教授就任のご挨拶



放射線医学
廣田 省三

平成19年4月1日付けで中尾宣夫教授の後任教授として放射線医学教室を担当させて頂くことになりました。

私は、昭和53年、神戸大学を卒業後、放射線医学を志し、CT、MR、USなどの腹部画像診断を中心に診療と研究を続け、さらに、IVRと呼ばれるカテーテルを用い

た種々の治療を専門としてきました。細かいカテーテルを魔法のように操り、病変をまるで外科手術のように治療し、しかも侵襲度が低く、翌日は歩行出来る治療に魅了されました。以来これを自らのライフワークとし、診療・研究を行ってまいりました。肝癌の化学塞栓療法、リザーバー動注療法をはじめ、動脈瘤の塞栓療法、腸骨動脈などのステント留置による血管形成術、さらに門脈圧亢進症による胃静脈瘤のカテーテル治療(B-RTO)も日本で最多症例数を手がけ精力的に行っております。

近年のCTやMRIなどの画像診断の進歩により、病変は高精度で3D画像として立体的に描出され、そして専門の放射線科医により高度の診断がなされ、画像診断は

まさに臨床を支えています。高精度治療機器によるがん放射線治療も放射線医学の一方の華として、地域がん医療の柱の役割を担っています。当科は、幸いにもこれらの全てを最高のレベルで提供出来る臨床的な実力を有しています。皆様方におかれましても、画像診断、IVR、

放射線治療については、いつでもご相談ください。

今後とも高いレベルの診療を行い、良医を養成することを第一義として努力する所存であります。ご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

兵庫医科大学外科学講座に赴任して



外科学
富田 尚裕

平成19年4月1日付けで旧第二外科山村武平教授の後任の外科学講座、教授として赴任いたしました。昭和30年の末（ひつじ）年生まれの52歳です。昭和55年に大阪大学医学部を卒業後、同大学の第2外科教室に入局しました。大学および関連病院での前期臨床研修の後、大阪大学第2外科および細胞工学センター（松原研究室）で癌の分子生物学についての研究に従事し、博士号は“肺癌におけるヒトアミラーゼ遺伝子発現の研究”でいただきました。その後、米国コロンビア大学癌センターでの2年余の留学を経て、帰国後は、大阪大学第2外科下部消化管グループでの助手、講師、グループチーフを経て、平成11年からは関西労災病院、外科部長として7年半勤務の後、今回、本学で仕事をさせていただく機会をいただきました。当初から消化器外科、その中でも大腸肛門

外科を専門として診療・研究に携わって参りましたが、臨床面では、大腸癌の集学的治療、化学療法、直腸癌の肛門温存手術を中心にし、研究面では、いわゆるトランスレーショナルリサーチとして分子生物学的手法を用いた大腸癌の転移診断や抗癌剤感受性予測などをメインテーマとしてきました。また、関西労災病院時代には、化学療法の臨床試験、外来化学療法システムの構築、緩和ケアチーム活動等を通してチーム医療の重要性を身を持って学びました。現在、大学および公的病院における外科診療は、年々にわたる外科医の減少、求められる高度医療と過重勤務の医療現場とのギャップ、医療費抑制政策の影響などにより、危機的状況にあります。その観点から、大学においては、教育・研究を通して外科の魅力をおおいにアピールし、本学の学生から一人でも多くの優秀な外科医を養成することと共に、実地臨床の面では、大学病院としての最先端の医療と平行して、近隣や他府県の医療施設との病病連携、病診連携を促進して効率的な医療ネットワークを構築することが急務であると考えています。兵庫医科大学関連の諸兄のご指導、ご協力を切にお願い申し上げます。

就任のご挨拶



特命教授
笹子 三津留

平成19年7月1日付で当大学初の特命教授として、国立がんセンター中央病院より赴任して参りました。外科の臨床と臨床研究を通して教育を行うことが私の使命と理解しております。

これまで20年間にわたり、国立がんセンター中央病院で胃がん・胃食道接合部がんを専門として、臨床一筋に邁進してきました。1989年より胃がんに対するリンパ節郭清を伴う手術（D2）と伴わない手術（D1）とを比較する第Ⅲ相試験がオランダで行われ、この試験に手術の指導者として参加するという貴重な経験を得ました。この試験を皮切りに、90年代には、わが国でもがんの外科手術に関する臨床試験が行われる時代となり、外科でもEBMが確かな手応えを持つに至っています。その結果、長年わが国の治療成績を信用しようとしなかった米国の

腫瘍外科医さらに腫瘍内科医までも、日本の治療方針と手術手技に関しては高く評価する時代となりました。この様な経験を通して、臨床と臨床研究を深く結びつけていくことで、始めて臨床が進歩することを強く実感しております。

胃がんの手術は、今でも総ての一般外科医にとって外科手術手技を学ぶ上での基本と考えられています。外科はまず頭を使い、そして手を使います。どんなに上手な手術も適応が違っていれば0点です。しかし、正しい手技も上手に手際よくできなければ結果が伴いません。手術中に新たな情報が追加され、瞬時の判断による計画変更も要求されます。似たような手術でも患者さんの術後のQOLが異なることはしばしばです。

故郷である兵庫に戻り、この地の若い外科の先生達に、私の学んできた総てを伝えようと考えております。外科はチームプレーですから、一人では何もできません。幸い藤元、富田の両教授が強力にバックアップして下さるということで、心強く思っております。長年教職を離れていたこともあり、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願いする次第です。

平成18年度 退職記念講演会

平成18年度退職記念講演会が、3月12日(月)午後4時から3-3講義室において開催され、3月31日付で定年退職となる2名の教授の講演がありました。

「放射線医学の発展とIVR」

放射線医学 中尾 宣夫 教授



「手術術式完成に到る

挑戦とその後の成果
—潰瘍性大腸炎の外科治療—
外科学第2 山村 武平 教授



平成20年度入学者選考要項概要（兵庫医科大学）

推薦入学試験

募集人員： 約15名
試験科目等： 適性テスト(英語、数学、理科に関して
医学を修めるための適性を検査する)、
小論文、面接、調査書
出願期間： 平成19年10月29日(月)～11月6日(火)消印有効
試験期日： 平成19年11月11日(日)
試験場： 兵庫医科大学
合格者発表： 平成19年11月26日(月)
入学検定料： 6万円

出願期間： 平成19年12月21日(金)～平成20年1月23日(水)消印有効
試験期日： 第1次試験：平成20年2月1日(金)
第2次試験：平成20年2月10日(日)
または11日(月・祝)
(いずれか希望日を選択)

試験場： 第1次試験 兵庫医科大学
東京会場：
アルカディア市ヶ谷
(私学会館)
福岡会場：
駿台予備学校 福岡校
第2次試験 兵庫医科大学

合格者発表： 第1次試験：平成20年2月8日(金)
第2次試験：平成20年2月16日(土)

一般入学試験

募集人員： 約85名
試験科目： 第1次試験： 数学(150点)、外国語(150点)、理科(2科目)(200点)
第2次試験： 小論文(100点)、面接(重視)(第1次試験合格者のみ)

平成20年度入学者選考要項概要（兵庫医療大学）

推薦入学試験

(専願制) 全学部

募集人員： <薬学部 医療薬学科> 約20名
<看護学部 看護学科> 約30名
<リハビリテーション学部 理学療法学科> 約10名

＜リハビリテーション学部 作業療法学科＞ 約10名

試験科目： 外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）

出願期間： 平成19年10月29日(月)～11月6日(火) 消印有効

試験日： 平成19年11月10日(土)

合格発表： 平成19年11月16日(金)

(併願制) 薬学部

募集人員： ＜医療薬学科＞ 約20名

試験科目： 外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）

出願期間： 平成19年11月19日(月)～11月27日(火) 消印有効

試験日： 平成19年12月1日(土)

合格発表： 平成19年12月7日(金)

一般入学試験

(前期A日程) 薬学部

募集人員： ＜医療薬学科＞ 約60名

試験科目： 外国語（100点）、数学（100点）、化学（100点）

出願期間： 平成20年1月9日（水）～1月24日（木）消印有効

試験日： 平成20年2月2日（土）

合格発表： 平成20年2月13日（水）

(前期B日程) 薬学部

募集人員： ＜医療薬学科＞ 約40名

試験科目： 外国語（100点）、化学（100点）

出願期間： 平成20年1月23日（水）～2月7日（木）消印有効

試験日： 平成20年2月16日（土）

合格発表： 平成20年2月22日（金）

(前期日程) 看護学部・リハビリテーション学部

募集人員： ＜看護学部 看護学科＞ 約60名

＜リハビリテーション学部 理学療法学科＞ 約25名

＜リハビリテーション学部 作業療法学科＞ 約25名

試験科目： ＜看護学部 看護学科＞

外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）

＜リハビリテーション学部 理学療法学科＞

外国語（100点）、数学（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）

＜リハビリテーション学部 作業療法学科＞

外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）

出願期間： 平成20年1月9日(水)～1月24日(木)消印有効

試験日： 平成20年2月2日(土)

合格発表： 平成20年2月13日(水)

(後期日程) 全学部

募集人員： ＜薬学部 医療薬学科＞ 約10名

＜看護学部 看護学科＞ 約10名

＜リハビリテーション学部 理学療法学科＞ 約5名

＜リハビリテーション学部 作業療法学科＞ 約5名

試験科目： ＜薬学部 医療薬学科＞

外国語（100点）、数学（100点）、化学（100点）

＜看護学部 看護学科＞

外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）

＜リハビリテーション学部 理学療法学科＞

外国語（100点）、小論文（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）
 <リハビリテーション学部 作業療法学科>

外国語（100点）、小論文（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）

出願期間：平成20年2月12日(火)～2月25日(月) 消印有効

試験日：平成20年3月1日(土)

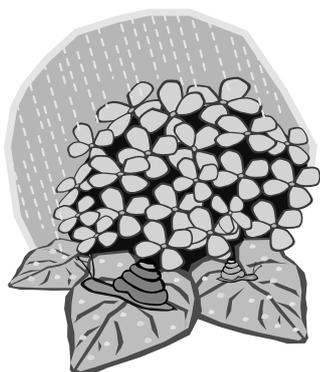
合格発表：平成20年3月7日(金)

平成19年度大学院医学研究科入学式

4月4日(水)午前10時から9-2講義室において平成19年度大学院医学研究科入学式が挙行されました。入学者は56名（うち女性21名）のうち45名が夜間履修学生です。今年度は、昼夜開講制の施行や学費の値下げの施行により、大学院学生の大幅な増加につながりました。

専攻	分野	授業科目名	人数	夜間履修者の有無	専攻	分野	授業科目名	人数	夜間履修者の有無	
医 科 学 専 攻	器官・代謝制御系	循環器病学	1 (1)	※	医 科 学 専 攻	高次神経制御系	リハビリテーション科学	3 (2)	※	
		上部消化管疾患学	1			生体応答制御系	病原微生物学	1 (1)	※	
		下部消化管疾患学	4	※			病院病理学	1 (1)	※	
		肝臓・胆嚢・膵臓病学	2	※			臨床免疫学	1	※	
		糖尿病学	1 (1)	※		呼吸器病態学	1	※		
		腎臓病学	3 (2)	※		小児科学	1 (1)			
		一般外科学	1			胸部腫瘍学	1	※		
		消化器外科学	7	※		分子病態学	2 (1)	※		
		乳腺内分泌外科学	1 (1)	※		生体再生制御系	造血細胞移植学	1		
		産科学婦人科学	2 (1)	※			形成外科学	1 (1)	※	
		泌尿器科学	2	※		環境病態制御系	環境病態医学・臨床疫学	1 (1)	※	
		口腔科学	1	※			法医学	1	※	
		総合診療内科学	1	※		先 端 医 療 学 専 攻	分子病態制御系	皮膚病態制御学	3 (1)	※
		麻酔科学	1 (1)				疼痛情報制御系	分子神経科学・ペインリサーチ	1	
	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学	1	※	分子再生医学系	神経再生医学		2 (2)	※		
	神経眼科学	6 (3)	※							
	合 計					56 (21) 名				

() : 女子内数



役員・評議員の異動

理事

就任

佐藤 禮子 理事（平成19年4月1日付）



佐藤理事は、昭和14年生まれ、36年3月岡山大学医学部附属看護学校卒業、51年3月青山学院大学大学院文学研究科修士課程心理学専攻修了、40年米国ニューヨーク大学がん看護コース修了、41年10月米国メリーランド州立大学病院交換看護師、49年4月慶応義塾大学医学部附属高等看護学院教務主任、54年8月愛知県立看護短期大学助教授、58年4月千葉大学看護学部助教授、平成4年4月同看護学部教授、同大学院看護学研究科看護学専攻教授、9年4月千葉大学評議員、13年4月千葉大学看護学部長・同大学院看護学研究科長、同看護学部附属実践研究指導センター長、16年4月放送大学教養学部・同大学院文化科学研究科教授、千葉大学名誉教授、18年4月本学新大学設置準備顧問、19年4月兵庫医療大学副学長。

森谷 伊三男 理事（平成19年4月1日付）



森谷理事は、昭和12年生まれ、36年3月中央大学商学部卒業、45年10月公認会計士森谷事務所設立（現）、51年4月監査法人サンワ事務所（現 監査法人トーマツ）入社、56年2月監査法人トーマツ代表社員（平成14年12月まで）、平成9年8月日本公認会計士協会 学校法人委員会委員長（10年6月まで）、13年1月文部科学省 大学設置・学校法人審議会委員（14年4月まで）、15年6月パイオニア株式会社監査役（19年6月まで）、16年4月本学監事（19年3月まで）、17年9月学校法人神奈川大学監事（現）。

細見 基信 理事（平成19年4月1日付）



細見理事は、昭和27年生まれ、57年3月兵庫医科大学大学院医学研究科修了、同年9月ロンドン大学ガイズ病院消化器科留学、60年1月育和会生和病院、同年4月本学第4内科医員、61年4月同助手、平成6年8月春秋会西大阪病院消化器内科部長、7年5月協和会協立温泉病院、8年4月細見医院院長、17年6月本学同窓会緑樹会会長、同年8月本学評議員。

西村 亮一 理事（平成19年4月1日付）



西村理事は、昭和13年生まれ、38年3月神戸医科大学卒業、43年4月神戸大学医学部非常勤講師、44年1月西村医院開設、54年6月兵庫県国民健康保険審査委員会委員、55年4月尼崎市医師会理事、57年4月尼崎市医師会副会長、60年4月日本医師会生涯教育委員会委員、61年4月日本医師会代議員、平成2年4月尼崎市医師会会長、尼崎健康医療事業財団副理事長、4年4月兵庫県医師会常任理事、同年10月兵庫県医療審議会委員、12年4月尼崎市医師会名誉会長、14年4月兵庫県医師会副会長、日本医師会理事、16年4月兵庫県医師会会長（現）、17年4月兵庫県教育委員（現）

畑 守人 理事（平成19年4月1日付）



畑理事は、昭和21年生まれ、45年京都大学法学部卒業、45年4月司法修習生（第24期）拝命、47年4月司法修習終了、弁護士登録（大阪弁護士会）、平成8年4月大阪簡易裁判所調停委員（現）、11年4月大阪弁護士会副会長（12年3月まで）、17年4月日本弁護士連合会常務理事（18年3月まで）、10月京都大学法学研究科法曹専攻非常勤講師、18年4月京都大学法学研究科法曹専攻客員教授。

森田 泰夫 理事（平成19年4月1日付）

（森田理事は、平成13年1月22日から平成19年3月31日まで評議員に就任されていました。）

再任

新家 莊平 理事（平成19年4月1日付）

波田 壽一 理事（平成19年4月1日付）

井植 敏 理事（平成19年4月1日付）

辞任

公受 秀明 理事（平成19年3月31日付）

退任

糸氏 英吉 理事（平成19年3月31日付）

監 事

就 任

岡本 茂登 監事（平成19年4月1日付）



岡本監事は、昭和8年生まれ、33年3月神戸大学経済学部卒業、25年7月株式会社兵庫銀行入社、49年3月公認会計士登録、同年5月税理士登録、同年10月公認会計士・税理士事務所開設（現）、51年4月監査法人トーマツ代表社員、平成5年5月学校法人親和学園監事（現）、13年5月ポケットカード株式会社監査役、14年4月兵庫県包括外部監査人、16年5月ポケットカード株式会社監査役退任、17年3月兵庫県包括外部監査人退任、6月石原薬品株式会社監査役就任（現）。

辞 任

森谷 伊三男 監事（平成19年3月31日付）

評 議 員

就 任

土肥 信之 評議員（平成19年4月1日付）



土肥評議員は、昭和16年生まれ、41年3月慶応義塾大学医学部卒業、42年慶応義塾大学医学部研修医、44年4月岡山大学医学部研修医、47年6月米国ニューヨーク大学リハビリテーション科レジデント、51年7月川崎医科大学医学部講師、54年10月同助教授、62年5月藤田学園保健衛生大学医学部教授、平成4年4月藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校長兼任、6年8月広島県立保健福祉短期大学教授、7年10月同副学長、12年4月広島県立保健福祉大学学長、17年4月県立広島大学三原地域連携センター長、本学新大学設置準備顧問、19年4月兵庫医療大学リハビリテーション学部長。

西原 力 評議員（平成19年4月1日付）



西原評議員は、昭和16年生まれ、45年3月大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了、44年5月日本学術振興会奨励研究員、45年5月大阪大学薬学部教務職員、46年4月同大学薬学部助手、48年米国国立健康研究所客員研究員、57年7月大阪大学薬学部助教授、63年8月同教授、平成4年4月同大学院薬学研究科教授、5年5月同大学評議員、6年4月同大学総長補佐、9年4月同大学先端科学技術共同研究センター教授、17年4月同大学名誉教授、同大学院工学研究科特任教授、17年5月本学顧問、19年

4月兵庫医療大学薬学部長。

土居 洋子 評議員（平成19年4月1日付）



土居評議員は、昭和19年生まれ、40年3月聖路加短期大学卒業、平成3年3月関西大学大学院社会学研究科博士前期課程修了、41年4月聖路加看護大学助手、43年4月東京大学医学部保健学科研究生、48年医療法人公文病院、50年10月淀川キリスト教病院、52年3月同病院教育部長、53年4月大阪府立看護短期大学講師、62年9月米国ミシガン大学看護学部、平成2年4月大阪府立看護短期大学助教授、4年4月同教授、6年4月大阪府立看護大学看護学部教授、10年4月同看護学部学部長、15年4月同看護学部評議員、18年4月大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター所長、19年4月兵庫医療大学看護学部長。

西崎 知之 評議員（平成19年4月1日付）



西崎評議員は、昭和29年生まれ、56年3月神戸大学医学部卒業、63年3月神戸大学大学院医学研究科修了、56年12月神戸大学医学部附属病院脳神経外科医員、57年4月西脇市立西脇病院医師、57年8月大井病院医師、58年4月兵庫県立姫路循環器病センター医師、59年1月兵庫県立淡路病院医師、63年4月神戸大学医学部附属病院脳神経外科医員、同年9月貞光病院医師、平成元年9月神戸大学医学部生理学第1講座助手、3年4月米国カリフォルニア大学アーバイン校留学、5年8月神戸大学医学部生理学第1講座講師、12年4月同助教授、同年9月本学教授（生理学第2）。

野口 光一 評議員（平成19年4月1日付）



野口評議員は、昭和31年生まれ、54年3月京都大学工学部卒業、58年3月大阪大学医学部卒業、平成元年5月大阪大学大学院医学研究科修了、58年6月大阪大学医学部附属病院臨床研修医、59年7月市立伊丹病院整形外科医員、60年7月関西労災病院整形外科医員、平成元年4月文部省特別研究員、同年6月大阪大学医学部解剖学第二講座助手、同年8月米国国立衛生研究所交換研究員、3年9月和歌山県立医科大学解剖学第2講座助教授、6年4月本学教授（解剖学第2）。

菊池 英彰 評議員（平成19年4月1日付）



菊池評議員は、昭和13年生まれ、42年3月奈良県立医科大学卒業、43年4月奈良県立医科大学第二内科研究生、44年10月同助手、48年5月本学第三内科助手、50年4月本学第三内科講師、57年7月特定医療法人一祐会藤本病院副院長、61年7月特定医療法人一祐会藤本病院院長、63年1月浜甲子園菊池診療所、平成4年4月西宮市医師会理事、兵庫県医師会予備代議員、6年4月兵庫県医師会代議員、12年4月西宮市医師会副会長、18年4月西宮市医師会会長、兵庫県医師会理事。

大森 綏子 評議員（平成19年4月1日付）



大森評議員は、昭和17年生まれ、38年3月国立姫路病院附属高等看護学校卒業、同年4月国立姫路病院、平成元年4月関西労災病院副看護部長、3年4月関西労災病院看護部長、9年7月財団法人日本病院機能評価機構評価者、10年7月兵庫県看護協会看護婦職能理事、11年4月労働福祉事業団看護監（理事）兼関西労災病院看護部長、同年7月日本看護協会認定看護管理者教育課程運営委員、兵庫県看護協会第二副会長、日本看護協会審議員、12年8月日本看護協会認定審査委員、13年4月関西労災病院副院長兼看護部長、神戸大学医学部保健学科臨床教授、15年10月日本看護協会成人看護学会学会長、17年7月兵庫県看護協会会長。

東 和夫 評議員（平成19年4月1日付）



東評議員は、昭和26年生まれ、50年3月福岡大学薬学部卒業、同年4月(株)吉谷商会入社、51年1月(有)アズマ薬局入社、59年11月アズマ薬局開局、平成4年4月社団法人兵庫県薬剤師会理事、6年4月同常務理事、14年4月同副会長、16年4月同会長。

梶平 司 評議員（平成19年4月1日付）



梶平評議員は、昭和29年生まれ、51年3月九州リハビリテーション大学卒業、同年4月関西労災病院、60年4月同主任理学療法士（現）、同年4月兵庫県理学療法士会理事、平成13年5月社団法人日本理学療法士協会代議員（現）、14年7月社団法人兵庫県理学療法士会副会長、16年6月同会長。

中野 潤一 評議員（平成19年4月1日付）

中野評議員は、昭和29年生まれ、53年3月関西学院大学経済学部卒業、同年4月神戸市事務職員採用、平成6年4月都市計画局主幹（株式会社神戸ハーバーランド情報センター）、9年4月保健福祉局西市民病院再建準備室長、11年4月産業振興局工業課長、15年4月生活文化観光局参事（財団法人神戸国際観光コンベンション協会）、18年4月保健福祉局健康部長。

森谷 伊三男 評議員（平成19年4月1日付）

佐藤 禮子 評議員（平成19年4月1日付）

畑 守人 評議員（平成19年4月1日付）

西村 亮一 評議員（平成19年4月1日付）

再任

新家 莊平 評議員（平成19年4月1日付）

波田 壽一 評議員（平成19年4月1日付）

森田 泰夫 評議員（平成19年4月1日付）

山村 武平 評議員（平成19年4月1日付）

垣下 榮三 評議員（平成19年4月1日付）

鈴木敬一郎 評議員（平成19年4月1日付）

太城 力良 評議員（平成19年4月1日付）

香山 浩二 評議員（平成19年4月1日付）

谷 洋一 評議員（平成19年4月1日付）

井植 敏 評議員（平成19年4月1日付）

山本 嘉彦 評議員（平成19年4月1日付）

辞任

公受 秀明 評議員（平成19年3月31日付）

中西 憲司 評議員（平成19年3月31日付）

退任

糸氏 英吉 評議員（平成19年3月31日付）

竹村 基彦 評議員（平成19年3月31日付）

学位の授与

	氏 名	学 位 論 文 名
甲第471号 (H19. 2. 8)	嵯峨山 健	Incidence of and risk factors for dysplasia in mucosectomy area in ulcerative colitis patients undergoing restorative proctocolectomy (潰瘍性大腸炎患者に対する大腸全摘術における粘膜切除部のdysplasiaの頻度とその危険因子について)
甲第472号 (H18. 3. 31)	中村 光宏	Postoperative joint symptoms : A risk factor for pouchitis in ulcerative colitis patients (潰瘍性大腸炎術後患者の関節症状は、回腸囊炎の危険因子である)
甲第473号 (H19. 3. 8)	常深健二郎	ハイドロキシアパタイトコーティングしたInterference screw(TJ screw)による靭帯再建術の力学的検討
甲第474号 (H18. 3. 31)	澤木 潤子	Type 1 cytokine/chemokine production by mouse NK cells following activation of their TLR/MyD88-mediated pathways (TLR/MyD88経路の活性化によるNatural Killer細胞からのType 1 cytokine/chemokineの産生)
甲第475号 (H18. 3. 31)	中野 文	Expression of the neural RNA-binding protein Musashi 1 in pediatric brain tumors (小児脳腫瘍におけるRNA結合蛋白Musashi 1の発現)
甲第476号 (H18. 3. 31)	李 文	Protection of CD8+ T cells from activation-induced cell death by IL-18 (活性化CD8陽性T細胞の生存に対するIL-18の役割)
甲第477号 (H19. 3. 31)	桂 弘和	Activation of Src-family kinases in spinal microglia contributes to mechanical hypersensitivity after nerve injury (脊髄神経損傷後の脊髄マイクログリアにおけるSrc-family kinaseの活性化は機械的刺激に対する痛覚過敏に寄与する)
甲第478号 (H19. 3. 31)	塚本 潔	Projections to the alimentary canal from the dopaminergic neurons in the dorsal motor nucleus of the vagus of the rat (ラットの迷走神経背側運動核より起こるドーパミン作動性ニューロンの消化管における分布)
甲第479号 (H19. 3. 31)	任 智美	Taste function after section of chorda tympani nerve in middle ear surgery (中耳手術における鼓索神経切断後の味覚機能)
甲第480号 (H19. 3. 31)	横山 陽子	Demonstration of low regulatory CD25 ^{High} CD4 ⁺ and high pro-inflammatory CD28 ⁻ CD4 ⁺ T-cell subsets in patients with ulcerative colitis: Modified by selective granulocyte and monocyte adsorption apheresis (潰瘍性大腸炎患者における末梢血中の制御性CD25 ^{High} CD4 ⁺ T-cellの減少と催炎症性CD28 ⁻ CD4 ⁺ T-cellの増加: 顆粒球吸着療法の効果)
甲第481号 (H19. 3. 31)	楊 冬琴	Intracellularly transported adenosine induces apoptosis in HuH-7 human hepatoma cells by downregulating c-FLIP expression causing caspase-3/-8 activation (HuH-7細胞において、細胞内に取り込まれたアデノシンがカスパーゼ-3/-8の活性化を調節しているc-FLIPの発現を抑制することによりアポトーシスを誘導する)
甲第482号 (H19. 3. 31)	任 几凭	ヒスタミンN-メチル基転移酵素の発現とシグナル伝達、分化およびアポトーシス誘導への作用
甲第483号 (H19. 3. 31)	邱 君	Histone deacetylase阻害剤sodium butyrateによる前立腺癌細胞の増殖抑制効果の検討
甲第484号 (H19. 3. 31)	高田 康弘	Flat Panel Detectorを用いた放射線治療時照射線量監視システムの構築と臨床応用
甲第485号 (H19. 3. 31)	劉 衛東	Chemoprevention of spontaneous development of hepatocellular carcinomas in fatty liver Shionogi mice by a cyclooxygenase-2inhibitor (FLSマウスにおけるCOX-2阻害剤による自然発生肝癌の予防)

	氏 名	学 位 論 文 名
甲第486号 (H19. 3. 31)	川添智太郎	Role of bacterial strain diversity of <i>Helicobacter pylori</i> in gastric carcinogenesis induced by N-methyl-N-nitrosourea in Mongolian gerbils (N-methyl-N-nitrosourea (MNU) によって誘発されるスナネズミの胃発癌におけるヘリ コバクターピロリ菌の菌側因子の役割)
乙第294号 (H19. 2. 8)	鏑本 浩志	Expression of recombinant human zona pellucida protein 2 and its binding capacity to spermatozoa (ヒト卵透明帯ZP 2 遺伝子組換え体蛋白の発現とその精子結合能についての研究)
乙第295号 (H19. 2. 8)	福田 有子	Superparamagnetic iron oxide (SPIO) MRI contrast agent for bone marrow imaging: Differentiating bone metastasis and osteomyelitis (SPIO造影MRIにおける転移性骨腫瘍と炎症性骨病変との鑑別診断 —臨床研究—)
乙第296号 (H19. 3. 8)	前田 弘彰	Radiologic variations in gastroduodenal shunts and collateral veins from gastric varices in images obtained before balloon - occluded retrograde transvenous obliteration (バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術B-RTOにおける胃静脈瘤の胃腎シャントと側副 静脈の画像的検討)
乙第297号 (H19. 3. 22)	中込 奈美	Juxtamembrane - type c - kit gene mutation found in aggressive systemic mastocytosis induces imatinib - resistant constitutive KIT activation (侵攻性全身性肥満細胞腫瘍で発見されたc-kit遺伝子傍膜部領域の変異はimatinib耐性 のKITの恒常的リン酸化を誘発した)

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

(単位：千円)

助 成 団 体 名	研 究 課 題 名	研 究 者	交 付 額
(財) 日本応用酵素協会	炎症性サイトカイン分泌に必須のカスパーゼ1の活性化機構に関する研究	筒井 ひろ子 (病原微生物学)	1,000
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所	膜電位イメージング情報からの機能的神経回路網の再構築	越久 仁敬 (生理学第1)	未定
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所	呼吸困難感の中樞情報処理機構の解明	越久 仁敬 (生理学第1)	135
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所	感覚神経における侵害刺激センサーとしてのTRPA1の役割	野口 光一 (解剖学第2)	未定
(社) 兵庫県医師会	遺伝性血管神経性浮腫 (C1 インヒビター欠損症) の遺伝子診断と発症機序の解明	松井 聖 (内科学(リウマチ・膠原病科))	330
助ひょうご科学技術協会	新規増殖因子HDGFの解析を中心とする肝癌細胞の増殖機構の解明	榎本 平之 (内科学(肝・胆・膵科))	1,000
全国納豆協同組合連合会	ビタミンKによる肝癌細胞の増殖抑制効果に関する基礎的検討	榎本 平之 (内科学(肝・胆・膵科))	100
助がん研究振興財団	cDNA及びmicro RNA microarrayによる膵癌の個別化診断とその臨床応用	嶋田 裕 (外科学)	1,200

平成18年度 私立大学等経常費補助金 交付決定

平成18年度 私立大学等経常費補助金として、1,484,097千円の交付が決定しました。

補助項目の区分は次のとおりです。

(単位：千円)

	区 分	17年度	18年度	対前年度増減	
一 般 補 助	専任教員等給与費	531,516	566,575	35,059	
	(退職金財団掛金)	(56,791)	(59,233)	2,442	
	専任職員給与費	265,562	280,930	15,368	
	(退職金財団掛金)	(26,852)	(26,058)	△ 794	
	非常勤教員給与費	1,123	798	△ 325	
	教職員福利厚生費	41,096	54,977	13,881	
	教育研究経常費	176,698	175,225	△ 1,473	
	厚生補導費	758	750	△ 8	
	研究旅費	6,137	6,556	419	
	計	1,022,890	1,085,811	62,921	
特 別 補 助	大学院整備重点化経費：教育研究拠点大学院重点経費	132,357	159,437	27,080	
	大学院整備重点化経費：研究科特別経費（学生分）	1,500	1,643	143	
	大学院整備重点化経費：特別研究学生経費			0	
	教育研究機能活性化特別経費			0	
	大学院基盤整備経費	66,118	66,920	802	
	ハイテク・リサーチ・センター経費	50,800	55,000	4,200	
	学術フロンティア経費	5,600	5,600	0	
	社会連携研究推進経費		12,300	12,300	
	オープン・リサーチ・センター経費	8,600	9,200	600	
	リサーチ・アシスタント、ポスト・ドクター支援経費	8,400	4,839	△ 3,561	
	夜間大学院等	520	988	468	
	小人数教育の推進	6,000	6,000	0	
	単位互換	3,500	3,500	0	
	外国人留学生の受入れ	752	786	34	
	研究施設	7,500	7,800	300	
	大型設備等	18,700	14,600	△ 4,100	
	外国人教員による教育			0	
	教育・学習方法等改善支援経費	3,620	34,333	30,713	
	高等教育研究改革推進経費			0	
	多元的評価		548	548	
	外国大学との学生の交流	500	457	△ 43	
	情報通信設備（借入）	2,300	2,100	△ 200	
	教育学術情報ネットワーク	4,700	5,022	322	
	教育研究情報利用経費	5,400	7,213	1,813	
		計	326,867	398,286	71,419
		合 計	1,349,757	1,484,097	134,340

注：（ ）内金額は内数を表す。

病 院 概 況

(理 念)

兵庫医科大学病院は、安全で質の高い医療を行い、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

(基本方針)

- 患者の立場に立った医療の実践
- 人間性豊かな、優れた医療人の育成
- 高度で、先進的な医療や医学研究の推進
- 健康増進活動による保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

患者数

区 分	入 院 (診療日数365日)						外 来 (診療日数271日)		
	診療日数	新入院患者数	退院患者数	在院延患者数	病床稼働率	平均在院日数	診療日数	新外来患者数	外来延患者数
		人	人	人	%	日		人	人
18年 4月	30	1,406 (46.9)	1,459 (48.6)	24,997 (833.2)	87.7	17.4	22	5,210 (236.8)	50,000 (2,272.7)
5月	31	1,467 (47.3)	1,411 (45.5)	25,182 (812.3)	85.4	17.5	22	5,482 (249.2)	50,490 (2,295.0)
6月	30	1,469 (49.0)	1,480 (49.3)	25,067 (835.6)	88.0	17.0	24	5,660 (235.8)	54,224 (2,259.3)
7月	31	1,454 (46.9)	1,485 (47.9)	25,532 (823.6)	87.0	17.4	23	5,327 (231.6)	52,687 (2,290.7)
8月	31	1,566 (50.5)	1,537 (49.6)	25,397 (819.3)	86.8	16.4	25	5,779 (231.2)	54,389 (2,175.6)
9月	30	1,359 (45.3)	1,447 (48.2)	24,624 (820.8)	86.8	17.6	23	5,093 (221.4)	51,875 (2,255.4)
10月	31	1,489 (48.0)	1,448 (46.7)	24,806 (800.2)	84.6	16.9	23	5,294 (230.2)	53,519 (2,326.9)
11月	30	1,329 (44.3)	1,373 (45.8)	23,028 (767.6)	81.8	17.0	21	4,936 (235.5)	50,395 (2,400.0)
12月	31	1,327 (42.8)	1,610 (51.9)	23,459 (756.7)	81.8	16.0	22	4,793 (217.9)	52,465 (2,384.8)
19年 1月	31	1,546 (49.9)	1,246 (40.2)	22,362 (721.4)	77.0	16.0	21	4,921 (234.3)	49,884 (2,375.4)
2月	28	1,359 (48.5)	1,362 (48.6)	21,973 (784.8)	84.3	16.2	21	5,112 (243.4)	49,613 (2,362.5)
3月	31	1,487 (48.0)	1,643 (53.0)	23,333 (752.7)	81.5	14.9	24	6,121 (255.0)	58,151 (2,423.0)
計	365	17,258 (47.3)	17,501 (47.9)	289,760 (793.9)	84.4	16.7	271	63,728 (236.6)	627,692 (2,317.8)
前年度対比	—	110.0%	110.7%	100.6%	3.1	△1.6	—	122.8%	105.8%

※ () は 1 日平均

産科婦人科学講座 香山浩二教授

米国生殖免疫学会のThe Distinguished Service Award受賞



平成19年5月14日から16日までカナダ、トロントのWestin Harbor Castleホテルにおいて第27回米国生殖免疫学会が開催されましたが、学会終了後の授賞式において本学の香山浩二教授が、上記The Distinguished Service Award賞を受賞されました。

この賞は、米国生殖免疫学会において学会の発展に顕著な功績のあった方に送られるもので、香山教授は、米国だけでなく国際生殖免疫学会の分野でも生殖免疫学の発展に尽力されたことが高く評価され、本賞が設立されてからの2人目の受賞となりました。



平成18年度 兵庫医科大学附属看護専門学校卒業式

平成19年3月6日(火)午前10時から平成記念会館において、平成18年度兵庫医科大学附属看護専門学校の卒業式が行われ、看護師3年課程64名が卒業しました。

なお、卒業式に先立つ3月5日(月)午前10時より、3-3講義室において、兵庫医科大学行動学研究室 磯 博行助教授(現兵庫医療大学共通教育センター教授)により「ストレスへの心理的対処」と題して卒業記念講演が行われました。卒業後の社会人としての、また職業人としての成長を促す機会として例年開催しているもので、今年度は、新人看護職員の離職が課題になっていることから、メンタルケア、ストレスケアにテーマを絞ってご講演(講義とリラクゼーションの実演)をいただきました。

式次第

開式の辞
校歌斉唱
学業報告
卒業証書授与
表彰状授与
学校長挨拶
来賓祝辞
在校生送別の辞
卒業生答辞
蛍の光斉唱
閉式の辞

平成19年度 兵庫医科大学入職式・オリエンテーション

平成19年度入職式が、4月2日(月)午前9時より平成記念会館で行われました。

西宮キャンパス入職者は、192名で、薬剤師 上野 智子さんが新入職員代表として新家庭理事から辞令の交付を受けました。

大学組織について	(総務部長)
医療安全管理について	(医療安全管理室)
個人情報の取扱について	(遺伝学 玉置教授)
社会保険・福利厚生等について	(人事課)
防災について	(総務課)
大学の案内 (VTR上映)	(人事課)
就業規則について	(〃)
給与について	(〃)
看護職員宿舎に係る留意事項について	((株)エイチ・アイ)
赴任旅費に係る請求手続きについて	(経理課)
免許申請に係る手続きについて	(人事課)



敷地内全面禁煙の完全実施に向けて

本学では、平成15年12月より敷地内禁煙を実施しておりますが、完全な禁煙状態を実現できていませんでした。そこで、その実現に向けての取組みとして、5月31日の世界禁煙デーに理事長、学長、病院長の連名で改めて宣言文を発表し、患者の皆さんや学生、教職員など関係する方々に協力をお願いし、また、並行して敷地内禁煙の完全実施に向けて全学で推進運動を展開することとなりました。今年1月からは事務職員による敷地内とその周辺道路の禁煙推進を兼ねた環境美化運動(禁煙キャンペーン)も実施しております。

敷地内全面禁煙の完全実施にご理解と協力の程よろしくお願いいたします。



人 事 異 動

〔西宮キャンパス〕

○兵庫医科大学・兵庫医科大学病院

〔任 命〕

発令日	氏 名	任命後の職名〔所属〕
4.1	波田 壽一	兵庫医科大学学長
〃	山村 武平	兵庫医科大学病院長

〔併 任〕

発令日	氏 名	併任後の職名〔所属〕	併任前の職名〔所属〕
4.1	岡村 春樹	教授〔先端医学研究所生体防御部門〕 先端医学研究所長兼任	教授〔先端医学研究所生体防御部門〕
〃	島 博基	教授〔泌尿器科学〕 兵庫医科大学病院副院長（経費削減担当）兼任	教授〔泌尿器科学〕
〃	太城 力良	教授〔麻酔科学〕 兵庫医科大学病院副院長（安全管理担当）兼任	教授〔麻酔科学〕
〃	谷澤 隆邦	教授〔小児科学〕 兵庫医科大学病院副院長（診療支援担当）兼任	教授〔小児科学〕
〃	山田 繁代	看護部長 兵庫医科大学病院副院長（療養環境担当）兼任	看護部長
〃	野口 光一	教授〔解剖学第2〕 教務部長兼任	教授〔解剖学第2〕
〃	西崎 知之	教授〔生理学第2〕 学生部長兼任	教授〔生理学第2〕

〔昇 任〕

発令日	氏 名	昇任後の職名〔所属〕	昇任前の職名〔所属〕
4.1	廣田 省三	教授〔放射線医学〕 放射線科診療部長兼任 中央放射線部長兼任	臨床教授〔放射線医学〕 放射線科診療副部長兼任
3.1	吉永 和正	特任教授〔地域医療学〕	講師〔救命救急センター〕 救命救急センター副部長兼任
4.1	羽尾 裕之	准教授〔病院病理部〕	講師〔病院病理部〕
〃	丸茂 幹雄	講師〔環境予防医学〕	助手〔内科学 血液内科〕
〃	大島 忠之	講師〔内科学 上部消化管科〕	助手〔内科学 上部消化管科〕
〃	寺田 友紀	講師〔耳鼻咽喉科学〕	助手〔耳鼻咽喉科学〕
〃	野口 一馬	講師〔歯科口腔外科学〕	助手〔歯科口腔外科学〕
〃	東 由美子	講師〔臨床心理部〕	助手〔臨床心理部〕
〃	森田 泰夫	事務局長	事務局次長
〃	岡山カナ子	看護師長〔看護部〕	看護主任〔看護部〕

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏 名	異動後の職名〔所属〕	異動前の職名〔所属〕
4.1	村田 宏雄	教授〔物理学〕	教授〔物理学〕 大学設置準備室兼務
〃	岡村 春樹	教授〔先端医学研究所生体防御部門〕 先端医学研究所生体防御部門長兼任	教授〔先端医学研究所生体防御部門〕
〃	島 博基	教授〔泌尿器科学〕 先端医学研究所発生・生殖部門長兼任 先端医学研究所家族性腫瘍部門教授兼任	教授〔泌尿器科学〕
〃	松本 譽之	教授〔内科学 下部消化管科〕 先端医学研究所家族性腫瘍部門長兼任	教授〔内科学 下部消化管科〕
〃	小川 啓恭	教授〔内科学 血液内科〕 先端医学研究所細胞移植部門長兼任	教授〔内科学 血液内科〕
〃	辻村 亨	教授〔病理学第2〕 先端医学研究所家族性腫瘍部門教授兼任	教授〔病理学第2〕

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏名	異動後の職名〔所属〕	異動前の職名〔所属〕
4.1	後藤 章 暢	研究所教授〔先端医学研究所細胞・遺伝子治療部門〕 先端医学研究所細胞・遺伝子治療部門長兼任	研究所教授〔先端医学研究所細胞・遺伝子治療部門〕
〃	松山 知 弘	研究所教授〔先端医学研究所神経再生研究部門〕 先端医学研究所神経再生研究部門長兼任	研究所教授〔先端医学研究所神経再生研究部門〕
〃	上農 喜 朗	准教授〔麻醉科学〕 中央手術部兼務	准教授〔麻醉科学〕
〃	森山 徳 秀	講師〔整形外科学〕 中央手術部兼務	講師〔整形外科学〕
〃	丸茂 幹 雄	講師〔環境予防医学〕 医学教育センター兼務	講師〔環境予防医学〕
〃	中野 芳 朗	講師〔遺伝学〕 先端医学研究所家族性腫瘍部門講師兼任	講師〔遺伝学〕
〃	和泉 雅 章	講師〔内科学 腎・透析科〕 内科 腎・透析科病棟医長兼任	講師〔内科学 腎・透析科〕 内科 腎・透析科医局長兼任
〃	岡田 昌 也	講師〔内科学 血液内科〕 内科 血液内科外来医長兼任	講師〔内科学 血液内科〕 内科 血液内科病棟医長兼任
〃	玉置 広 哉	講師〔内科学 血液内科〕 内科 血液内科病棟医長兼任	講師〔内科学 血液内科〕
〃	田中 宏 幸	講師〔産科婦人科学〕	講師〔産科婦人科学〕 産科婦人科病棟医長兼任
〃	鏑本 浩 志	講師〔産科婦人科学〕 産科婦人科病棟医長兼任	講師〔産科婦人科学〕
3.1	切田 学	講師〔救命救急センター〕 救命救急センター副部長兼任	講師〔救命救急センター〕
4.1	切田 学	講師〔救命救急センター〕 救命救急センター副部長兼任	講師〔救命救急センター〕 救命救急センター医局長兼任
〃	久保山 一 敏	講師〔救命救急センター〕 救命救急センター外来医長兼任	講師〔救命救急センター〕
〃	平松 治 彦	講師〔医療情報部〕	講師〔医療情報部〕 大学設置準備室兼務
〃	岩佐 義 久	総務部次長	総務部次長 大学設置準備室兼務
〃	齋藤 英 雄	総務部次長（施設担当）	総務部次長（施設担当） 大学設置準備室兼務
〃	宇都宮 明 美	看護師長〔看護部（ICU）〕	看護師長〔看護部〕
〃	矢吹 浩 子	看護師長〔地域医療・総合相談センター〕 看護部兼務	看護師長〔看護部（10階東病棟）〕
〃	竹田 良 子	看護師長〔看護部（8-1病棟）〕	看護師長〔看護部（11階西病棟）〕
〃	利木 佐 起 子	看護師長〔看護部（11階西病棟）〕	看護師長〔看護部（13階東病棟）〕
〃	田中 京 美	看護師長〔看護部（10階東病棟）〕	看護師長〔看護部（13階西病棟）〕
〃	高橋 仁 美	看護師長〔医療安全管理室〕	看護師長〔看護部（8-1病棟）〕
〃	丸山 美 津 子	看護師長〔看護部〕	看護師長〔医療安全管理室〕
〃	大西 正 明	財務部参事	大学設置準備室参事
〃	佐野 統	教授〔内科学 リウマチ・膠原病科〕 治験センター長兼任	教授〔内科学 リウマチ・膠原病科〕 治験管理室長兼任
〃	門林 宗 男	薬剤部長 治験センター副センター長兼任	薬剤部長 治験管理室副室長兼任
〃	和田 恭 直	主任技師〔臨床検査部〕 感染制御部兼務	主任技師〔臨床検査部〕

〔委嘱（学内講師）〕

発令日	氏名	現職名〔所属〕	委嘱職名
4.1	山根 康 嗣	助教〔病理学第1〕	学内講師
〃	中尾 伸 二	助教〔内科学 循環器内科〕	学内講師
〃	正井 美 帆	助教〔内科学 冠疾患科〕	学内講師
〃	澤田 暁 宏	助教〔内科学 血液内科〕	学内講師
〃	康 典 利	助教〔内科学 肝・胆・膵科〕	学内講師
〃	倉賀野 隆 裕	助教〔内科学 腎・透析科〕	学内講師
〃	戸祭 正 喜	助教〔整形外科〕	学内講師
〃	加納 直 行	助教〔耳鼻咽喉科学〕	学内講師
〃	肥塚 浩 昌	助教〔臨床栄養部〕	学内講師
〃	河田 修 治	助教〔核医学・PETセンター〕	学内講師

〔採用〕

採用日	氏名	職名	所属
4.1	富田 尚 裕	教授	外科学 外科診療部長兼任
〃	中村 志 郎	准教授	内科学 下部消化管科
〃	佐加良 英 治	准教授	動物実験施設
〃	瀬尾 徹	講師	耳鼻咽喉科学 耳鼻咽喉科外来医長兼任
〃	高橋 敬 子	臨床講師	内科学 冠疾患科
〃	太田 邦 廣	参事	総務部 施設整備課
〃	田路 勝	参事	病院事務部 地域医療課

○兵庫医科大学附属看護専門学校

〔併任〕

発令日	氏名	併任後の職名〔所属〕	併任前の職名〔所属〕
4.1	垣下 榮 三	兵庫医療大学共通教育センター長 兵庫医科大学附属看護専門学校長併任	兵庫医科大学附属看護専門学校長 大学設置準備室室長兼任

兵庫医療大学開学に伴う異動

〔神戸キャンパス〕

○兵庫医療大学

〔任命〕

発令日	氏名	任命後の職名〔所属〕
4.1	松田 暉	兵庫医療大学学長

〔併任〕

発令日	氏名	併任職名
4.1	佐藤 禮 子	兵庫医療大学副学長
〃	西原 力	薬学部長 教務部長
〃	土居 洋 子	看護学部長
〃	土肥 信 之	リハビリテーション学部長 学生部長
〃	垣下 榮 三	共通教育センター長
〃	末 廣 謙	図書館長
〃	磯部 孝 彦	共通教育センター副センター長 入試センター長

〔昇 任〕

発令日	氏 名	昇任後の職名〔所属〕	昇任前の職名〔所属〕
4.1	磯部 孝彦	教授〔共通教育センター〕	助教授〔化学〕 医学教育センター兼務
〃	磯 博行	教授〔共通教育センター〕	助教授〔行動学〕 医学教育センター兼務
〃	伊東 久男	教授〔共通教育センター〕	助教授〔動物実験施設〕 医学教育センター兼務
〃	前田 耕一郎	教授〔共通教育センター〕	助教授〔物理学〕 医学教育センター兼務
〃	藤田 幸久	教授〔共通教育センター〕	助教授〔医系物理化学〕 医学教育センター兼務
〃	加藤 精一	講師〔共通教育センター〕	助手〔数学〕 医学教育センター兼務

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏 名	異動後の職名〔所属〕	異動前の職名〔所属〕
4.1	西山 信好	教授〔薬学部〕	主幹〔大学設置準備室〕
〃	川口 浩太郎	教授〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕	主幹〔大学設置準備室〕
〃	堀口 敏恵	講師〔看護学部〕	主幹〔大学設置準備室〕 感染制御部兼務
〃	櫛 邊 勇	講師〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕	主査〔大学設置準備室〕
〃	佐々木 周一	ゼネラルマネージャー〔神戸キャンパスオフィス〕	大学設置準備室次長
〃	北江 正幸	マネージャー〔神戸キャンパスオフィス 教育・学生支援グループ〕	大学設置準備室課長
〃	山本 晴生	マネージャー〔神戸キャンパスオフィス 入試・就職グループ〕	入試センター事務室課長 大学設置準備室兼務
〃	中村 高志	マネージャー〔神戸キャンパスオフィス 図書館・情報グループ〕	大学設置準備室課長
〃	住 勝実	マネージャー〔神戸キャンパスオフィス 管理・運営グループ〕	大学設置準備室課長
〃	高田 泰彦	マネージャー〔神戸キャンパスオフィス 管理・運営グループ〕	大学設置準備室課長

〔採 用〕

採用日	氏 名	職 名	所 属
4.1	西原 力	教授	薬学部
〃	前田 初男	教授	薬学部
〃	青木 俊二	教授	薬学部
〃	宮部 豪人	教授	薬学部
〃	田中 明人	教授	薬学部
〃	田中 稔之	教授	薬学部
〃	八野 芳己	教授	薬学部
〃	佐藤 禮子	教授	看護学部
〃	土居 洋子	教授	看護学部
〃	鈴木 久美	教授	看護学部
〃	藤井 眞理子	教授	看護学部
〃	竹田 千佐子	教授	看護学部
〃	ポールドグラスアンドリュウ	教授	リハビリテーション学部 理学療法学科
〃	高橋 哲也	教授	リハビリテーション学部 理学療法学科
〃	土肥 信之	教授	リハビリテーション学部 作業療法学科
〃	日高 正巳	教授	リハビリテーション学部 理学療法学科
〃	山田 大豪	教授	リハビリテーション学部 作業療法学科
〃	秦 正哲	教授	共通教育センター

〔採用〕

採用日	氏名	職名	所属
〃	末 廣 謙	教授	共通教育センター
〃	芝 崎 誠 司	准教授	薬学部
〃	前 田 拓 也	准教授	薬学部
〃	富 永 真 己	准教授	看護学部
〃	伊 藤 斉 子	准教授	リハビリテーション学部 作業療法学科
〃	甲 谷 繁	講師	薬学部
〃	水 野 暢 子	講師	看護学部
〃	西 村 明 子	講師	看護学部
〃	小 関 真 紀	講師	看護学部
〃	坂 口 顕	講師	リハビリテーション学部 理学療法学科
〃	有 吉 正 則	講師	リハビリテーション学部 作業療法学科
〃	高 木 範 子	講師	共通教育センター
〃	賀 屋 光 晴	講師	共通教育センター
〃	垣 下 榮 三	共通教育センター長	共通教育センター

〔定年退職(19. 3. 31)〕

氏名	職名	所属部署	採用年月日
中尾 宣夫	教授	放射線医学	S48. 8. 1
飯田 俊一	事務局長	事務局	S51. 4. 1
長田 久美子	助教授	病原微生物学	S49. 1. 16
黒津 敏嗣	助教授	生化学	S50. 9. 1
西林 満	助手	動物実験施設	S47. 4. 1
廣澤 タネ子	看護補助	看護部(8階東病棟)	S55. 4. 1
安藤 淳光	主任	総務課	S53. 9. 16
原口 照子	電話交換手	総務課	S48. 8. 1
香川 孝子	主任	図書課	S49. 9. 1

規程等の制定・改正 (規程等の全文は学内ネットに掲載)

項目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
1 常務会規程	常務会の位置付け、役割、構成員、開催日程等を明確にして、法人経営の強化を目指すため改正	平成19年6月1日
2 兵庫医科大学学則	学校教育法改正に伴う教員の名称変更及び外科学統合に伴う改正	平成19年4月1日
3 教授会規程	病院長専任制に伴う改正	平成19年4月1日
4 兵庫医科大学大学院学則	大学院設置基準一部改正に伴う改正 入学金・授業料等の納付額の見直しに伴う改正	平成19年4月1日
5 病院規程	診療科の組織変更及び治験センターの設置に伴う改正	平成19年4月1日
6 兵庫医科大学病院治験センター規程	治験実施の推進、活性化、ネットワーク化を図るためのセンター設置に伴う制定	平成19年4月1日
7 学校法人兵庫医科大学事務組織規程	兵庫医療大学開学等に伴う改正 治験管理室の治験センターへの改組及び事務分掌を現状に即したものに變更することに伴う改正	平成19年4月1日 平成19年5月1日
8 兵庫医科大学遺伝子治療臨床研究審査委員会規程	文部科学省・厚生労働省告示の遺伝子治療臨床研究に関する指針に対応するための改正	平成19年4月1日

	項 目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
9	研究活動に係る不正行為に関する調査委員会規程	公的資金（競争的資金）を取得して研究活動をする際「不正行為等に関する調査委員会」設置を求める文部科学省通達に伴う制定	平成19年4月1日
10	人事考課調整委員会規程	人事考課判定の平等性・客観性・公平性を確立するため制定	平成19年4月1日
11	クリニカルパス推進委員会規程	クリニカルパスの実施を推進するための体制充実に伴う改正	平成19年4月26日
12	治験センター運営委員会規程	治験センターの円滑な運営を行うため制定	平成19年4月1日
13	先端医学研究所長選考規程	先端医学研究所の活動範囲の多様化に伴う所長の選出区分の見直しに伴う改正	平成19年4月1日
14	教員選考基準	学校教育法の一部改正に伴う教員の名称変更及び教員任用基準見直しに伴う改正	平成19年4月1日
15	兵庫医科大学における任期を定めて採用する教員に関する規程	学校教育法の一部改正に伴う教員の名称変更に伴う改正	平成19年4月1日
16	非常勤講師に関する規程	現行の「非常勤講師（無給）取扱内規」、非常勤講師関連の申し合わせを統廃合し現状に即した規程として制定	平成19年4月1日
17	兵庫医科大学臨床教育教授等の称号の付与に関する規程	現行の「臨床教授(学外)等の称号付与に関する規程」「臨床実習教授等の称号付与に関する規程」を統廃合し整備して制定	平成19年4月1日
18	兼任教員に関する規程	兵庫医科大学・兵庫医療大学の相互の教育充実のため専任教職員に非常勤講師を委嘱するために制定	平成19年4月1日
19	特命教授設置規程	学術研究、診療で優れた人材を確保するため、特命教授を設置することに伴う規程の制定	平成19年5月1日
20	教務に関する規程	成績評価基準の合格基準点変更に伴う改正 総合進級試験の評価内容の改正 再試験の成績評価基準の合格基準点変更に伴う改正	平成19年4月1日
21	聴講生、受託生および研究生の取り扱いに関する規程	入学日の前日までに入学辞退の届出があったものについて授業料を返還するための改正	平成19年5月28日
22	校務印章取扱規程	兵庫医療大学開学に伴う改正	平成19年4月1日
23	兵庫医科大学防火・防災管理規程	兵庫医療大学開学、病院事務部の名称変更、自衛消防隊編成の再考に伴う改正	平成19年4月1日
24	兵庫医科大学就業規則	教員の名称変更、未整備条項の見直し、特別休暇の追加、看護職員の交替制勤務者の休日等の変更に伴う改正	平成19年6月1日
25	就業細則	看護職員の交替制勤務に係る就業時間の変更等に伴う改正	平成19年6月1日
26	兵庫医科大学給与規程	大学院担当手当ての見直し、扶養手当及び夜間看護手当の引上げ等に伴う改正	平成19年4月1日
27	兵庫医科大学大学院担当手当支給内規	大学院担当手当の見直しに伴う制定	平成19年4月1日
28	兵庫医療大学開設時専任教員の赴任にかかる手当てに関する暫定内規	適用対象の変更に伴う改正	平成19年5月7日
29	職員等の室料の取扱要領	健康保険法に基づく保険医療機関及び保健医療養担当規則の遵守のため、職員等の医療費免除を廃止したことによる改正	平成19年4月1日
30	兵庫医科大学指定校奨学金貸与規程	本学の指定校に在学する者で卒業後兵庫医科大学病院等において看護師・助産師の業務に従事しようとする学生に貸与する奨学金について制定	平成19年4月1日
31	兵庫医科大学病院奨学金貸与規程	兵庫医療大学に在学する者で卒業後兵庫医科大学病院等において看護師・助産師の業務に従事しようとする学生に貸与する奨学金について制定	平成19年4月1日
32	兵庫医科大学篠山病院就業規則、 兵庫医科大学ささやま老人保健施設就業規則	定年後の再雇用制度の雇用年齢の変更に伴う改正	平成19年4月1日
		教員の職名変更及び特別休暇の追加に伴う改正	平成19年6月1日
33	兵庫医科大学篠山病院給与規程、 兵庫医科大学ささやま老人保健施設給与規程	扶養手当の引上げに伴う改正	平成19年4月1日
34	学校法人兵庫医科大学大学連携協議会規程	兵庫医科大学及び兵庫医療大学の教育・研究における連携を図るため制定	平成19年4月1日
35	兵庫医療大学学則	兵庫医療大学開学に伴う制定	

	項 目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
36	兵庫医療大学入学前の既修得単位の認定に関する規程	兵庫医療大学学則第20条及び教務に関する規程第2条第2項の規定に基づき、学生が入学する以前に他大学等で修得した単位を兵庫医療大学の単位として認定するために必要な事項を制定	平成19年4月1日
37	兵庫医療大学就業規則	学校法人兵庫医科大学寄附行為の精神に基づき兵庫医療大学の専任職員の労働条件、服務規律その他の就業に関する事項を制定	
38	兵庫医療大学給与規程	兵庫医療大学就業規則に基づき専任職員の給与について制定	
39	兵庫医療大学大学協議会規程	兵庫医療大学学則第9条に基づき大学協議会に関する事項を制定	
40	兵庫医療大学学部教授会規程	兵庫医療大学学則第10条第6項に基づき3学部教授会に関する事項を制定	
41	兵庫医療大学共通教育センター教授会規程	兵庫医療大学学則第10条第6項に基づき共通教育センター教授会に関する事項を制定	
42	兵庫医療大学学長選考規程	兵庫医療大学学長選考に関する事項を制定	
43	兵庫医療大学学長候補者選考委員会規程	兵庫医療大学学長選考規程第5条第3項により、学長候補者選考委員会に関する事項を制定	
44	兵庫医療大学学部長選考規程	兵庫医療大学学部長選考に関する事項を制定	
45	兵庫医療大学共通教育センター長選考規程	兵庫医療大学共通教育センター長選考に関する事項を制定	
46	兵庫医療大学副学長に関する規程	兵庫医療大学学則第8条第2項に基づき副学長に関する事項を制定	
47	兵庫医療大学学科長規程	学則第8条第2項に基づき学科長に関して必要な事項を制定	
48	兵庫医療大学学生部長選考規程	兵庫医療大学学生部長選考に関する事項を制定	
49	兵庫医療大学教務部長選考規程	兵庫医療大学教務部長選考に関する事項を制定	
50	兵庫医療大学図書館長選考規程	兵庫医療大学図書館長選考に関する事項を制定	
51	兵庫医療大学地域連携実践センター長選考規程	兵庫医療大学地域連携実践センター長選考に関する事項を制定	
52	兵庫医療大学図書館規程	兵庫医療大学図書館の運営に関する事項を制定	
53	兵庫医療大学教務に関する規程	兵庫医療大学学則に基づき、授業科目の履修、試験及び進級に関する事項を制定	
54	兵庫医療大学図書管理規程	図書の保管、利用及び除籍に関する基準を制定	
55	兵庫医療大学図書閲覧規程	兵庫医療大学図書館の図書閲覧について制定	
56	兵庫医療大学学外者の図書館利用内規	兵庫医療大学教職員及び学生以外の図書館利用について制定	
57	兵庫医療大学貸与奨学金規程	兵庫医療大学学生で経済的理由により修学困難な者に奨学金を貸与し有為な人材を育成するため制定	
58	兵庫医療大学給付奨学金規程	兵庫医療大学の新入学生で入学試験結果の優秀な者に対し奨学金を給付するため制定	
59	兵庫医療大学給付奨学金規程細則	兵庫医療大学給付奨学金規程の運用について制定	
60	兵庫医療大学学長及び学部長の任期並びに主要役職者の選考に関する暫定規程	開学当初の大学運営を円滑に行うための特例措置として制定	
61	兵庫医療大学学生委員会規程	兵庫医療大学学生の修学、生活、健康、奨学金、課外活動等の事項について協議し問題解決に当たるため制定	
62	兵庫医療大学教務委員会規程	兵庫医療大学学生のカリキュラム、試験等の事項について協議し問題解決に当たるため制定	
63	兵庫医療大学入試運営委員会規程	兵庫医療大学入学者選考にかかる事項について協議し問題解決に当たるため制定	
64	兵庫医療大学図書館委員会規程	兵庫医療大学図書館規程第5条に基づき図書館運営に関する重要事項を審議するため制定	
65	兵庫医療大学ファカルティ・デベロップメント委員会規程	教員個人及び教員組織としての教育能力を開発・改善し教育研究機能の向上を図るため制定	

新大学のための募金

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会（ご父兄）、緑樹会（卒業生）、名誉教授、退職者等481名の個人ならびに本学関係企業・医療法人等から、温かいお申し込みを賜りました。まことに有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学校法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、今回はその第2回であります。下記のとおり取りまとめさせていただきました。

本学校法人では、この新大学の教育研究用施設設備等の充実を図るべく、これからも全力で大学運営の合理化推進等に当たり、必要資金確保の自主的努力を重ねてまいります。さらに加えて、ぜひとも関係各方面からのご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続き今後ともご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

19.1.26～19.3.31

区 分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		総 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
申 込	97	144,869,000	491	83,620,000	588	228,489,000
入 金	56	115,669,000	430	78,900,000	486	194,569,000

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

[企業等法人] (48法人)

2,000,000円 株式会社 きんでん様	200,000円 有限会社 アスコット設計様
1,000,000円 三日月建設株式会社様	50,000円 アイテム有限会社様
500,000円 株式会社 成光工業様	50,000円 有限会社 宝西冷熱工業所様

(ご芳名のみ記載)

株式会社 オーエンス様	株式会社 竹中庭園緑化様
大成温調株式会社様	(株)ハーフセンチュリーモア様
株式会社 東畑建築事務所様	有限会社 宝塚新樹園
近畿医療設備株式会社様	日本サイン株式会社様
フジテック株式会社様	株式会社 千代田テクノ 大阪営業所様
浅海電気株式会社様	株式会社 日立産機システム
株式会社 NTT西日本 - 兵庫様	神戸サービスステーション様
株式会社エヌ・ティ・ティピーシーコミュニケーションズ様	成栄株式会社様
日本管財株式会社様	日本電検株式会社様
株式会社 高橋技建様	有限会社 ベック様
株式会社 ケアコム様	日本通運株式会社 阪神支社様
白石広告株式会社様	(株)柄谷商店様
株式会社 アマミ建築工業様	新芙蓉エンジニアリング株式会社様
有限会社 クレオ様	共栄産業株式会社様
島設備工業株式会社様	ケイ・プランナー株式会社様
大紘設備株式会社様	株式会社 青香園様
住友電設株式会社 神戸支店様	神戸相互タクシー株式会社様
田中工業株式会社様	株式会社 イノウエ様
株式会社 兵庫蓄電池様	株式会社 ヒラカワガイダム様
株式会社 共英メソナ様	匿名 2社
株式会社 衛生センター様	
ユウキ産業株式会社様	

[関連病院等] (21法人・1病院)

10,000,000円	医療法人協和会様	500,000円	特定医療法人協和会様
1,000,000円	医療法人尽生会様	200,000円	医療法人社団いずみ会
500,000円	とくなが病院様		太田外科診療所様
500,000円	財団法人 兵庫県予防医学協会様	100,000円	医療法人社団兼誠会様

(ご芳名のみ記載)

医療法人 小林内科胃腸科様	医療法人社団正名会様
医療法人 川崎病院様	医療法人沖繩徳洲会 神戸徳洲会病院様
特別・特定医療法人生長会様	社会福祉法人甲山福祉センター様
医療法人明倫会様	柏原赤十字病院様
医療法人美翔会 姫路愛和病院様	医療法人伯鳳会 赤穂中央病院様
医療法人一高会 野村海浜病院様	神崎病院様
医療法人社団甲友会様	匿名 2法人

[後援会] (1法人・3名)

100,000円	(ご芳名のみ記載)	阪神消毒サービス様
中野 篤 様	匿名 1社	
(ご芳名のみ記載)		
松原 秀春様	[名誉教授] (5名)	
尾崎 均 様	300,000円	杉本 照子様
医療法人高德会	200,000円	相模成一郎様
松永眼科医院様		

[緑樹会] (5名)

50,000円	100,000円	吉岡 濟 様
西岡 顯 様	50,000円	欠田 早苗様
堀 理照様	(ご芳名のみ記載)	立石 博臣様
30,000円		
山中 潤一様		
(ご芳名のみ記載)		
森田 博子様	[退職者] (9名)	
野出美知子様	100,000円	加藤 公之様

[その他個人] (2社・1名)

500,000円	10,000円	松本 たき様
杉安謙一郎様		

(ご芳名のみ記載)

伊藤 博 様	70,000円	梶 勝博様
石野シズイ様		中江 保夫様
稲森 和江様		高橋 澄夫様
住田 勝代様		香月 孝幸様
平尾 恵子様	50,000円	
廣瀬かつ美様		上田 晴之様
湯浅イツ子様		宮下 維文様
	30,000円	
		寺田 友紀様

[教職員] (56名)

250,000円	20,000円	小川 孝博様
宮本 正喜様		山上みや子様
村川 和重様		畑中 禄子様
柏木 徹 様		豊澤利江子様
佐野 統 様		琴浦 規子様
島 博基様		濱川美智子様
中尾 宣夫様		紀州ゆり子様
廣田 省三様		福山 広志様
越久 仁敬様		
120,000円	10,000円	阿部 宏 様
山中 潤一様		谷 和彦様
中村 秀次様		

上野 厚美様

(ご芳名のみ記載)

糸氏 英吉様
中島 貴子様
奥 日出夫様
加地 靖子様
高橋 正子様
平山 伸一様
尾崎 隆男様
大和田健夫様
柳 秀憲様
吉矢 晋一様
上田 康生様
上農 喜朗様
木下 直子様
浜田 邦久様
佐藤 剛陽様
岡村 春樹様
山本 悟史様
匿名 11名

(順不同)

兵庫医科大学広報 第189号

編集発行：学校法人 兵庫医科大学

事務局 総務部

〒663-8501

西宮市武庫川町1番1号

TEL：0798-45-6532

FAX：0798-48-6261

NO SMOKING



敷地内全面禁煙の完全実施について

本学及び病院では、2003年5月の健康増進法施行に伴い、同年12月より敷地内全面禁煙を宣言しています。

タバコは「百害あって一利なし」の言葉通り、癌や呼吸・循環器病など多くの病気を引き起こし、悪化させます。毎年世界で500万人、日本で11万人もの方がタバコ関連の病気で死亡しています。

喫煙習慣そのものが病気（薬物依存症）で、約1時間で切れるニコチンという薬物に脳が支配された状態です。喫煙は病気からの回復を遅らせ、再発の原因ともなります。

他人のタバコの煙を吸わされる受動喫煙も、有害・危険です。

本学及び病院は、医師の養成・教育及び病気の予防・治療を高い水準で行う社会的使命があります。本学及び病院が皆様の健康を守るためには、敷地内全面禁煙の完全実施しかありません。

また、本学及び病院へのタバコの持参や敷地外周辺での喫煙もご遠慮ください。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

2007年5月31日（世界禁煙デー）

学校法人兵庫医科大学理事長

新家 莊平

兵庫医科大学学長

波田 壽一

兵庫医科大学病院病院長

山村 武平



兵庫医科大学